

議事要旨

会合名：第2回 DX 対応モデル契約見直し検討 WG (WG2)

日時：2019年6月24日(火) 10:00~12:00

討議内容：

1. 事例について

3件のヒアリング事例について事務局から説明し、以下のような議論があった。

- 全体に見て準委任契約が多いが、現実問題として請負契約でないといけないというユーザ企業もある。
- ヒアリングでのアジャイルのリスクとしては、ユーザの認識が不十分、とか、慣れていないことで齟齬がでる、ということが強調されている。
- リスクを列挙して、契約でうまく回避するという考え方もあるが、アジャイルマニフェストの主旨に沿うと、まずは信頼関係を確立するように努力する、ということ。ただ、契約である程度頑張れるところも考える、というのがこのWGの主旨ではないか。

2. 今後の進め方について

WG2の今後の進め方に関して検討資料・関連資料について説明し、以下のような議論があった。

- 信頼関係のある受発注者間ではトラブルが発生しにくい。そのようなケースでは契約書に細かく記載することはない。一方、そうでない場合はトラブルを想定して、役割分担等細かく記載することになる。モデル契約のターゲットとして、どのようなケースを想定するのか議論の必要がある。
 - ターゲットは広めに設定して検討する。
- アジャイル開発がトラブルになる真の原因は契約書にあるのではなく、正しい理解が無いまま開発を進めていることにあるのではないか。
 - 契約モデルと合わせ、アジャイル開発に対する理解を深めるための啓発メッセージも発信する。
- 進め方や役割分担を契約書に細かく記載するとアジャイル開発の柔軟性、俊敏性が失われる恐れがある。
 - 準委任契約を対象に、契約書本文／別紙／参照文書という3層を軸にモデルを検討する。
ただし、請負契約についてはリスク、注意事項を明確にする。
- 当初のスコープからずれた時に契約違反にならないよう、従来の“評価検討会議”のような仕組みの組み込みや、変更を法的に位置付けるやり方も必要。
 - 変更管理について検討する。

以上